

## より良い親子関係講

NO 72

## ～～「子どもを尊重し、大切に扱う」ということ～～

はじめて講座を受けるお母さまに「親と子どもの平等」について話すと、お母さまは「(無言)」。

あなたも何だか良く理解できないといった表情。(理解しづらいのはよくわかります。私も親が偉い(上)だと思っていた!) 親と子どもの同じところ、違うところを一つ一つ挙げながら確認していきますが、それでも今ひとつ納得できない様子。(ここはいちばん大事なところなんですよ～! と、こころの中で叫んでま～す)

テキストには親子の平等について「人としての尊厳において等しく、人間性と人格ににおいて等しい」と書いています。親と子どもの同じところは、どちらも一人の人間だということ。つまり親も子どもも同じように敬意をもって扱われる権利があること。そして、どちらも考えや感情を表現する権利を平等にもっていること。(ここが、つい忘れがちになるところ・・・) この2つをしっかりと押さえておかなければ、命命や指示、おどしがまかり通ってしまいます!(あなたは気づいていないのかもしれませんが・・・)

また、親と子の違うところは「役割」です。実はここもとても大切なところなのです。つまり、親と子どもは平等であっても、違うのです。親は、責任をもって子どもを育てるという重要な役割があります。この役割を忘れてる! ?と思うような親を時々見かけるときがあります。また「平等」ということをまちがえて理解している親もいます。たとえば「大人だって遅くまで起きてるじゃないか。だからまだ寝ない・・・」と言いつける子どもに何も言わない、あるいは“勝手にしろ”と放っておく親。また「子どもを尊重しなければ・・・」と、仕方なく子どものいいなりになっている親。これはどちらも無責任な「放任的な子育て」になります。「親も子も同じ人間だから同じだろう」という子には、「親と子どもは同じではない!」と、親と子どもの違うところをきちんと説明しなければいけません。また「子どもを尊重する」ということは、子どものわがママを許したり、言いなりになることではありません。尊重するということは、子どもの考えや意見、気持ちをしっかりと聞き、ありのままに受け止めることです。仕方なくいいなりになるのではなく、しっかり子どもと話し合っ、倫理的な結果を設定することです。しかし、子どもにとって良くないと思うことであれば、親として「いけない(ダメ)」と毅然とした態度で言うことも大事です。最後にどうするのか、責任をもって決断するのは親です。親は子どもを育てるという自分の役割を忘れないようにしましょう!

また上司と部下、教師と生徒、医師と患者などの関係も同じようにまちがえやすいものです。一人の人間としては平等ですが、けっして「同じ」ではありません。この点をまちがって理解しないように気をつけましょう。相手を恐れることも、かといって過剰にへりくだることもありませんが、それぞれの立場をわきまえて、お互いを敬う気持ちと態度を大切にしたいものです。人としての上下関係はありませんが、上司は上司として、教師は教師として、尊敬の気持ちをもって関わりましょう。

平等の立場に立つこと、信頼して任せること、ありのままに認めること、ていねいな依頼をすること、罰を使わないこと、マイメッセージ、気持ちに寄り添う共感など、私たちがテキストで学ぶことすべてが子どもを尊重し、大切に扱うことに結びついています。このように、大切に育てられた子どもは、学校で、あるいは社会で生きていくとき、自分がされたように周りを大切に、協力的に関わって生きていくことができます。そのためにも、親もまたAP的に生きる努力をしなければならぬのだと痛感します。

## ♡ハローフレンズ ☒♡

### “Logical Consequences vs. Punishment”

“It only took a few minutes for Yamato Tanooka to vanish after his parents abandoned him by the side of the road to teach the misbehaving boy a lesson.” This was a news story in Japan last May that worried people far and wide. Fortunately it had a happy ending, and the seven-year-old survived being left in a forest.

“Barefoot child, six-years-old, made to stand outside on concrete for ten minutes in Arizona’s 112 degree weather as punishment” was a July story that shocked people in the U.S. The parents didn’t seek medical help until the severe burns on his feet became infected and then he had to be hospitalized.

A long term goal of parents should be to teach children a sense of responsibility. Using the opportunity of setting up intelligent logical consequences is a powerful way to teach this to children. Just putting up with misbehavior until the parent becomes angry usually results in punishment rather than a learning experience through logical consequences.

In the case of the Japanese parents, some thoughts may have been going through their minds: How many times have we told him not to throw rocks! Maybe if we just stop the car and put him out? A good scare might cure him.

AP parents in this case might have discussed the problem with the boy on the way home. They possibly could have reached an understanding with the child that if he continues to throw rocks, there will be consequences, such as no more outings to the forest for a time.

In the case of the Arizona couple, we do not know from the news article what the boy’s misbehavior was. But instead of setting up a logical consequence, they seem to have acted out of anger and put their young son outside in the searing temperature.

This six-year old child suffered a lot from his punishment. No matter what the misbehavior was, AP parents would have tried to deal with it, possibly using logical consequences.

Setting up appropriate logical consequences is not easy. Taking an example from the news such as those above, and discussing how the adults in the story might set up a logical consequence would be time well spent in your AP group.

--June Seat, -APJapan Founder and Friend

### 論理的結果 対 罰

「田野岡大和くんが両親から、言うことを聞かない子に対する教訓として道の脇に置き去りにされてから姿を消すまでほんの数分のことでした」これは日本中の人々が心配した、5月に日本で起こったニュースの話です。幸いにして、それはハッピーエンドで終わりました。7歳の大和くんは置き去りにされた森の中で生き延びていたのです。

「6歳の裸足の子どもが、罰としてアリゾナの華氏112度の屋外で10分間コンクリートの上に立たされた」これはアメリカ中の人々がショックを受けた7月の話です。足に負った深刻な火傷が化膿して入院が必要となるまで、両親は医療処置を求めませんでした。

長期的な子育ての目標は、子どもに責任感を教えることです。理性的な論理的結果を設定する機会を活用するのは、責任感を子どもに教えるのに効果的な方法です。親が、子どもの悪い行動を我慢した挙句に怒るということは、結果的に普通は、論理的結果を通して学ぶという経験よりも罰そのものになってしまいます。

日本での事件の場合、様々な思いが親たちの頭をよぎったかもしれません。例えば、石を投げてはいけなくて何度言ったことか！もし私たちが車を止めて子どもを置き去りにしたらどうなるか？ 怖い思いをした方が、子どもも分かるかもしれない、などです。

このような場合、APの親であれば、帰る途中でこの子とその問題について話し合いをしたかもしれません。もし子どもが石を投げ続けたら、しばらくは森へ出かけることはやめる、などの結果を設定することで、何とか子どもが理解するようにしたでしょう。

アリゾナの夫婦の場合は、子どもの悪い行いが何であったのかは新聞の記事からはわかりません。しかし、論理的結果を設定する代わりに、親たちは怒りにまかせて焼けつく気温の中、小さな子どもを外へ出すという行動に出たのです。この6歳の子どもは、罰で大変な被害を受けました。悪い行いが何であれ、APの親たちであれば、できる限り論理的結果を使うことで対応しただろうと思います。

適切な論理的結果を設定するのは簡単ではありません。上にあげたようなニュースなどを例に取り上げて、話の中の大人たちがどのように論理的結果を設定できるかを話し合うことは、あなたのAPグループで有益に過ごす時間となるでしょう。

APジャパン創設者・友人 ジューン・シート  
訳：野口 紀子



## 『APに感謝』 伊藤 智恵

野中先生にお会いして一年半が経ちました。今はフォローアップに通っています。先生にお会いするとホッとしますし、皆さんの話を聞いて、共感したり反省したり、実践しようと思ったり・・・APの時間は、自分を見つめる有意義な時間になっています。

APを勉強するようになって、これまでの自分の当たり前が、当たり前じゃなくなり、子どもと接する時、自分の言動に気を付けるようになりました。

私には三人の息子達があります。特に真ん中の子とは小さい頃から何かとぶつかり、ずっと育てるのが難しいと感じていました。

先日、その小学生の次男が公園で仲間外れにされたと怒りながら帰ってきたので、早速AP！と思って実践しました。

話を聞いてるうちに、息子は涙がポロポロ。『悔しい気持ちなんだね』『悲しいんだね』と、私は話を聞いてましたが、息子はピタッと泣き止んだかと思うと、私をジッと睨んで『僕が悪いと思ってるくせに』と言われました。

確かに『先に何か言ったかな？』『いつもワガママだからじゃないの？』とか、心の何処かで思ってたのがバレた。。と、私は焦りました。そう、前は私がことばに詰まると、『もういい』と言ってサッと次男は離れて行ってしまっていたのです。

今回は、心の奥にある私の気持ちをちゃんと話そうと思いました。『もし、あなたが悪くてこうなってしまったとしても、お母さんはあなたのお母さんであることは変わらないし、あなたが大好きで、いつも味方だよ』そう素直に伝えると、照れながらも表情が明るくなり、『関係ない人に冷たくしてしまったから謝らないと・・・』と・・・しばらくすると、また元気に遊びに行きました。もし、APをしていなかったら、私は次男を責め、親目線で勝手にジャッジして、気持ちに寄り添う事が出来なかったと思います。

何か問題があった時、以前は『またか』と気が重くなっていましたが、最近はチャンスだと思いアレコレやってみます。



『子どもの気持ちをことばにする』というのは、普段から分からないと思っている子どもほど難しいです。でも、例え上手く行かなくても、親子には次の日もあるんだと前向きになり、子ども達の気持ちを考えながら、他の対応を試してみようと思えます。

そして、その日々の積み重ねで、私も子どもも成長出来ると感じています。そうポジティブに考えられる私にしてくれたAPに感謝です。



### ～リーダーフォローアップ講座から～

最近リーダーになったYさんがステキな話をしてくれました。

Yさんは3人姉妹のママです。二女は小さい頃からおとなしく、幼稚園に入ってもお友達がいなくても平気で、一人で好きなことをして遊んでいることが多かったそうです。でも、ときどきかんしゃくを起こすこともありました。Yさんは、ずっと「この子はそんな子なんだ」と、思っていたそうです。

APを受講したときに「励ましの手紙」を書きますが、二女への手紙がなかなか書けなかったそうです。その時、リーダーから「よく子どもを見てないと書けないよ」そう言われたYさんは、それから二女に関心を示して気持ちにも寄り添うようにしたそうです。すると、おとなしいと思っていた二女がしだいに積極的になり、今ではお友だちもたくさんできて、何にでもチャレンジするようになったそうです。Yさんは「たったそれだけで二女が変わった！」と嬉しそうでした。

「たった、それだけ」なのですよ～。親が子どもに関心を示してやると、存在(being)を認められたことで、それだけでも子どもは嬉しいのです。それに子どもはお母さんやお父さんに認められたり、良かったね、できたね！(doing)と喜んでもらえると、何よりも自信になります！

たったそれだけのこと、やってみましょう！

### 神奈川県厚木市 川内 春美

日本の家族形態は、儒教と日本の文化が結びついた日本独自の忠孝思想に基づいた、家父長制の独裁的な家族関係が主たるものでしたが、高度経済成長期になると若者が農村部から都市部へと移り住んだことにより、大家族から核家族へと変化し、それに伴い家族関係も多様化していったのではないかと推察しています。核家族となっても独裁的な親子関係のままであったり、自由を放任と取り違えた家族や、民主的関係を築く家族など、様々なのではないのでしょうか。核家族により親だけ子どもを育てる割合が増えたにもかかわらず、農村部は人口流出により地域コミュニティが衰退し、都市部では新たなコミュニティの形成が難しく、そのために地域の子どもの育てる力が低下し、親の子育ての負担はとて大きくなっていると考えます。

また、子どものしつけや教育で(母)親が評価される、少子化の影響で親がはじめて抱いた赤ちゃんがわが子、といったようなことも耳にします。自分の子育てに不安や戸惑いを感じながら孤立している(母)親も多く、自分が育てられたようにわが子を育てたくないと感じながらも、どのように育てたら良いかわからず途方に暮れていたり、インターネットなど情報が溢れる中で、自分や子どもを他者と比べ、悲観している親もいるのではないのでしょうか。好奇心が強く活動的で、周囲の大人が期待する行動をするのが苦手な子どもは発達障害を疑われ、ありのままのその子らしさを認められる環境も少ないように感じます。過保護や過干渉の親も多く、共依存関係に陥り、ニートになった子どもに悩む親も多いでしょう。

子どもを取り巻く環境については、少子化によって子ども社会が失われつつあり、公園などの子どもの居場所も少なくなり、直接的なコミュニケーションの場は激減しています。一方でゲームやビデオを見て一人で過ごしたり、ソーシャルネットワークなど、インターネット上での間接的なコミュニケーションがほとんどで、子ども同士でコミュニケーションを学ぶ場が少なくなっていると感じます。核家族の影響で祖父母や親戚とのつながりや地域と家庭の関わりが希薄になり、子どもが身近な社会においてコミュニケーションを学ぶ機会も非常に少なくなっていると思います。

学歴・競争社会で生き残れるようにと、幼い頃から塾や習い事に通う子どもも多く、大人社会と同様に疲弊している子どもが増えているように感じます。親をはじめ子どもに関わるすべての大人は子どもが自分らしく輝いて人生を生きぬき、生涯成長していくために必要な力「勇気・責任感・協力精神」の3つの資質を民主的な方法で育み、子どもが安心して成長することができるように積極的に関わっていかなくてはなりません。子育ては子どものためだけではなく、家庭教育は親にとっても自己成長の機会になると確信しています。子育ての中で親も学び、自らのセルフエスティームを高め、子どもと共に成長することで、家族皆が自立し、相互依存の関係を築くことができるのではないのでしょうか。そして深い絆で結ばれ、愛に満ちた家庭で育った子どもはより良い人生を歩んでいくことができると思っています。

### 大分県別府市 吉田 万里

子どもたちはとても悪い環境の中に置かれていると思います。テレビゲーム、携帯電話ゲーム、パソコンゲームなど、子どもの成長と発育の上で良くないものが普及し、公園や外で走り回って遊ぶ子どもがほとんどいません。いたとしても座ってゲームをしています。共働きが当たり前の社会の中で、親子の時間が少なくなっています。家族の絆がほろかいしていつているように思います。親は仕事のストレスから愛情によらない独裁的か、放任的な子育てがますます強くなり、さらに状態や環境が悪くなると子ども虐待か、子育て放棄などへ発展するケースが増えてきている気がします。帰る家があつて、ホッと出来て、家族との団らんと会話を楽しむ家庭が減ってきているのではないのでしょうか。反対に、児童養護施設に預けられてしまう子どもも増えているのが実態ではないのでしょうか。核家族の中でたくさん飛び交ういろんな情報に振り回されて、どんな子育てをしていいのかわからない、誰に相談していいかわからない若いお母さんたちが大勢いるだろうと推察します。APはそんなお母さんたちに手をさしのべてあげられるとてもよい講座であると思います。自分と向き合い、子どもと向き合ってより良い親子関係をAPの学びを通して築いていってほしいと願います。

## 福岡県飯塚市 宮原 久美香

・ 大人たちが自分たちの都合や合理性を追求するあまり、最近の子どもたちは生まれながらにして、豊かで便利すぎる環境だったり、大人に合わせた生活リズムになってしまっているように感じる。

・ 歩も大人並みの早い流れの中であって、こちらのゆとりや情緒面が落ち着きなく過ごして(させられて) いるのではないだろうか。

・ 親がその場の感情で叱ったり、怒らないにしても指図や命令をしたりすることが多く「勇気くじき」の言葉が無意識のうちにたくさん放っているような気がする。親子が上下や支配的関係にあると、どうにかして親の考え(価値観)に沿うように導こうとしている。また子どもを低く見ていて、「できない」と決めつけ、過保護になってしまったり、あるいは子どもの言いなりになる場合もある。子どもにしてみれば、反抗心が生まれたり、やる気をなくしたり、自尊心、自立心も育ちにくくなるだけである。それではより良い関係に結びつかない。

ではより良い関係になるにはどうすればいいのだろうか。それは「勇気くじき」ではなく、子どものやる気を高める「勇気づけ」の関わり方に答えがあると思われる。親子が対等の関係にあるべきでお互いに尊敬し合う、信頼し合う関係を保つことが大事であり、子どもは一人の人間として尊重すべき存在であるという意識を忘れなければ、すぐに感情的になったりせず、冷静に子どもの行動や問題にも対処できるようになると思う。



## 活動報告

福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」と「妙法寺福岡分院」で、5月から月1回行っていた「ガミガミ言わずに育てる方法」のワークショップが、盛況のうちに9月で終了しました。

妙法寺ではお寺の本堂で仏様を正面に見ながらのワークショップ。お上人さまのお話も少し加わり、会議室とは違って静かな癒しも得られるとても素敵な空間でした。参加者からはたくさんの感想を頂きましたので、一部ご紹介いたします。

\* 日頃のイライラから原因や解決法など学ぶことができ、今日から少しずつ心がけていこうと思った。

\* 言葉かけひとつで子育てがうまくいくんだ…と気づけました。上の子にイライラすることが多いので、感情的にならずマイメッセージで伝えてみようと思いました。

\* 子どもに共感する…簡単なことだけれど、行わないと通じない。自分自身の意識改革が必要なんだと思いました。

\* 子どもの気持ちをしっかり聴いてみようと思いました。「壁のないコミュニケーション」という考えが勉強になりました。今まで口出しすることが多かったなあ、と反省しています。

\* ガミガミ言わずに育児する光が見えた気がする。

私たちは内容について色々試行錯誤していますので、参加者の感想は、私たちの大きな励みになります。また来場時には子育ての悩みから少し沈んだ表情だった方が、途中から表情が明るくなり笑顔で帰って行かれる姿を見送る時に喜びや達成感を感じます。もちろん、参加者の笑顔を引き出すのはスタッフの働きかけだけでなく、グループの皆さんによる共感の力が本当に大きいと感じています。

NPO主催のAP講座については9月より「あすみん」で開講し5名の方が参加されています。また10月より「妙法寺福岡分院」で、11月からは「もち文化センター」で2期目が開講いたします。ワークショップの度に講座のご案内をくり返し行っており、徐々に講座に関心を示す方が増えていますが、もっと広く告知していきたいと考えています。

NPO法人 AP共育サポート理事長 佐藤 由美

### 「2016年リーダー研修会 in福岡」のご案内

日常の喧噪から離れ、緑に囲まれた温泉につかってAPを語り、親睦を深めましょう。  
日帰り参加もできます！  
皆さまのご参加をお願い致します。

日 時：10月29日（土曜日）から30日（日曜日）  
一泊二日（29日13時受付～30日12時解散です）

場 所：久山温泉ホテル夢家  
〒811-2511  
福岡県糟屋郡久山町久原1822  
電話：092-976-1800

参加費：一泊二日：20,000円（宿泊費、研修費込み）  
日帰り研修（夕食つき）：参加費15,000円

申し込み：10月20日までにAPジャパンまでお申し込み下さい。

アクセス：天神より都市高速で約 20 分  
福岡空港より車で約 25 分  
九州自動車道福岡 I.C. より車で約 7 分  
駐車場約 350 台(無料)  
JR 福北ゆたか線・篠栗駅下車



### ～～APを学んでおられる皆さまとリーダーの皆さまへ～～

日本でのアクティブ・ペアレンティング（略称AP 以下APと称す）の歴史は1985年から始まりました。今日、私たちがAPの恩恵を受けられるのはAPジャパン創始者のジューン・シートさんの熱意と尽力のお陰です。もちろんAPを支えて下さる皆さまのお陰でもあります。

私は1998年からジューン・シートさんの後を引き継ぎ、18年間APジャパン代表として務めてまいりました。ジューンさんの講座を受講して以来30年間、APを信頼し、実践することで、より良い親子関係や人間関係を築くことができました。それに4人の子どもたちはAPの目的である「自立」をし、それぞれが自分らしく生きています。ご縁があってAPに出会ったことは、私の人生にとってたいへんラッキーでした。日本でAPを始められたジューンさんには尊敬と感謝の思いでいっぱいです。

さて、「AP」は「テキストとビデオを使って開く講座」です。APをたくさんの親に学んでほしい気持ちが先行し、テキストを購入してもらわないでAPのワークショップやセミナーを開くことがあるかもしれません。しかし、それはAPP社との契約に反することになります。テキストが手元があれば、後でまた読み直し深く理解することもできます。「AP=テキスト+ビデオ」ですから、APという名前を使用する場合にはテキストを購入していただき、講座やワークショップ、あるいはセミナーなどを開いて頂きますようお願い致します。ご不明なときは事前にAPジャパンにご相談下さい。よろしくお願い致します。

私は、APを学んでおられる皆さまやリーダーの方々一人ひとりがAPを信頼し、実践していくことでいきいきと輝き、魅力的な親になること、そして子どもを自立させること、それがAPが広がっていく大きな力になると信じています。これからもどうぞAPを応援して下さい。

APジャパン代表 野中 利子

♡ 連絡事項! ♡

◎APジャパンのホームページを開いたことがありますか？ PCだけではなく、スマホでも見ることができます。

2017年からリニューアルします。季刊誌「リンク」は年4回、ホームページ上にPDFにしてアップしますのでどうぞご覧下さい。これからのAPジャパンの活動はホームページでもお知らせしていきたいと思っています。

◎ホームページにご自分の紹介、連絡先などを掲載して、講座につなげましょう。

APジャパンのホームページ上にご自身の連絡先などリンクさせたい方はご連絡下さい。

◎季刊誌「リンク」は、ホームページで見るともやっぱり郵送がいい？

現在、季刊誌「リンク」は年4回、リーダー・トレーナー、そして受講生に郵送しております。(受講生は講座を受講した年度は無料で郵送しています)

2017年新春号から季刊誌「リンク」をホームページ上で、誰でも、無料で見るようになるようにします。ただリーダー研修会開催のお知らせやだいたいな連絡などは個人的に郵送でお知らせしたいと思います。

◎リーダーの勉強会を開いています！

9月から、第一月曜日10時から12時までリーダーの勉強会をしています。9月5日に開催し、3名の方が参加されました。10月3日終了しました。次回、11月は7日(月) 10時からです。

皆さま、ぜひおいで下さい！ 楽しく、いろいろなことをご一緒に学び、活動していきましょう。

場所はAPジャパン事務所(城南区茶山2-2-5 ☎090-8391-3196) 参加費無料。

◎受講生のフォローアップ講座を毎月3回開催しています。受講生ならどなたでも参加できます!

受講後したものの、なかなか行動に移せない! 他の方の話も聞きたい! APを忘れないようにしたい! もう少し学びたい! そのような方のためのフォローです。他の受講生との交流も楽しいですよ。気軽に参加して下さい。

10月は14日(金) 17日(月) 18日14時30分から3回開催しました。11月の予定は、8日10時から、24日10時からとなっています。参加ご希望の方はAPジャパンまでご連絡下さい。

場所はAPジャパン事務所(城南区茶山2-2-5 ☎090-8391-3196) 参加費1,000円。



しゅんすけ日記

○月 ××日

2016年8月12日、長女(きょうかちゃん)が生まれました。

お兄ちゃんになったしゅんすけは戸惑っているようです。昨夜、私がしゅんすけと添い寝中、きょうかちゃんが泣き出してしまいました。激しく泣くのでいつものように、「次はきょうかちゃんの番ね」と、抱っこすると、「ダメ〜!今はしゅんすけの番でしょ!」としゅんすけもいつもより激しく泣き叫び始めました。そして、しゅんすけの隣で授乳している私の肘を、おっぱいみたいに吸い始め、そのまま眠ってしまいました。

何だか涙が出てきました。同時に二人の気持ちを満たしてあげることができなくて悔しいし、悲しいし……。特に、しゅんすけは我慢がつらんだろうし、ほんとうに赤ちゃんに戻りたいと思ってるんだろうな〜と思うと、可哀想で、悲しくなっていました。

## APジャパンからのお願い



おめでとうございます。

新リーダーのご紹介  
(敬称略)

- ☆ 大分県別府市：吉田 万里
- ☆ 福岡県飯塚市：宮原 久美香
- ☆ 神奈川県厚木市：川内 春美
- ☆ 福岡市大野城市：島田 和子

リーダー養成講座を終了した方でまだレポートを提出されていない方がいます。リーダー養成講座をされたトレーナーさんは、レポートの提出までしっかりサポートをお願いします。

☆ 講座が始まりましたらすぐ受講生の名簿をお送り下さい。その際には郵便番号とお名前にふりがなをつけてお送り下さい。また転居された場合はご連絡下さい。

☆ 年会費はリーダー資格登録年会費(6,000円) トレーナー登録年会費(10,000円) となっております。この年会費にはリンク購読料も含まれております。お間違いないようお願いします。登録年会費は年内に納入をお願い致します。

☆ リーダーの方で退会される場合にはかならずご連絡下さい。

☆ APジャパンの住所は今までと同じですが、住所内(事務所)には常駐しておりません。テキストの注文や受講生名簿の送付などのAPジャパンへのご連絡はできるだけ携帯電話あるいはメールでお願いします。

☆ テキスト(4,000円) キット(50,000円) など

の教材は講座を受講しなくても電話注文で、購入することができます。

### APジャパン事務所 (代表 野中 利子)

☎：携帯電話：090-8391-3196

携帯メール toshiko-mama-718@ezweb.ne.jp

P Cメール [apjapan@activeparenting.or.jp](mailto:apjapan@activeparenting.or.jp)

**あとがき**：小学校、中学校、高等学校の新指導要領の基本的な方向性を議論していた中央教育審議会の審議のまとめが8月に公表されました。キーワードは「社会に開かれた教育課程」。今回の改正のポイントは「学びの質」の改善だそうです。①学びに向かう人間性など：どのような社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか。②知識・技能：何を理解しているか、何ができるか。③思考力・判断力・表現力：理解していることやできることをどう使うか。この3つの柱によって子どもが詰め込むように教えてもらう立場から、主体的・対話的に深い学びができるようにアクティブ・ラーニングを目指して授業が行われるようになるそうです。「学び」自体の質が改善される改革ではありますが、果たして現場での授業や学びの質はどのように変わのでしょうか？とりあえずは、子どもたちが「学校で学ぶことが楽しい！」そう思ってしっかり勉強してほしいな～と願わずにはられません。



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>

「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2016 発行者 APジャパン  
代表 野中 利子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5 (事務所)

電話：090-8391-3196

FAX：092-851-8606

[apjapan@activeparenting.or.jp](mailto:apjapan@activeparenting.or.jp)

「リンク」は年間4回の発行で2,000円です。